

～地域カラーの持つイメージを効果的に活用するために～

令和4年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名： 「宮古市の地域色を活用したシティプロモーションの手法に係る研究」

研究代表者：宮古短期大学部 教授・大志田憲

課題提案者：宮古市長 山本正徳

研究メンバー：中居裕美（宮古市企画部企画課）、河野暁子（宮古短期大学部）

松田淳（宮古短期大学部）

技術キーワード：地域色、印象、ブランド化、SD法

▼研究の概要

岩手県宮古市では若年層流出による人口減少が課題となっており、当市出身の若年層に向けてシティプロモーションを行い、地元の魅力と快適な居住環境を再確認してもらうきっかけをつくること、Uターン者の増加に繋がる可能性のひとつとして考えている。シティプロモーションの取り組みのひとつとして、一般社団法人日本地域色協会と連携し「海」の地域資源である「浄土ヶ浜」の地域色（カラー）を「浄土ヶ浜エターナルグリーン」として決定し、その活用を検討している。そこで、主となるターゲットが若い世代でもあることから、本学の学生参加による地域色に関するアンケートを実施し、その調査分析、地域色を活用した取り組みなどの意見交換を行った。



図1 学生参加による調査等

▼研究の成果

得られた成果の中から、アンケート結果の一部を紹介する。

「1 静かいたい」「2 穏やかな」「3 落ち着いた」「4 穏やかな」「5 落ち着いた」「6 落ち着いた」「7 落ち着いた」「8 落ち着いた」「9 落ち着いた」「10 落ち着いた」「11 落ち着いた」「12 落ち着いた」「13 落ち着いた」「14 落ち着いた」「15 落ち着いた」

アンケートは図2に示すように、それぞれの地域色に対し、相反する形容詞対を用いて、5段階の尺度評価で実施した。

図2 形容詞対

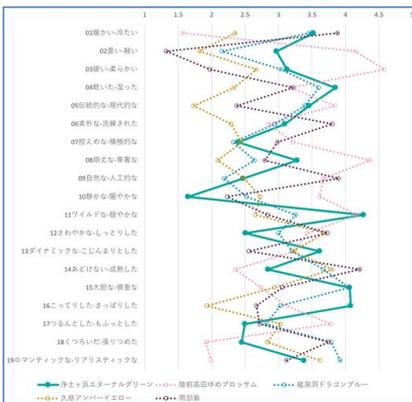


図3 プロフィール分析

表1 形容詞と因子の意味づけ

	形容詞	因子の解釈
因子1	柔らかない、くつろいだ、華やかな、緩やかな、軽い、ロマンティックな、もふっとした、穏やかな	癒し性 安心、可愛らしさ
因子2	積極的な、ダイナミックな、大胆な、賑やかな、人工的な	活動性 行動、派手さ
因子3	さわやかな、あどけない、さっぱりした、現代的な	清潔性 透明感、幼さ、今風さ
因子4	洗練された、落ち着いた	洗練性

表2 因子得点の平均値一覧

地域色	因子1	因子2	因子3	因子4
■浄土ヶ浜エターナルグリーン	0.121558	-0.63825	0.635168	0.506537
■陸前高田ゆめプロッサム	1.442027	0.451336	0.46308	-0.47097
■龍泉洞ドラゴンブルー	-0.77353	-0.389723	0.417534	0.817164
■久慈アンバーイエロー	-0.13463	0.075628	-0.9075	-1.00736
■南部紫	-0.65548	0.508517	-0.62829	0.154625

図3は、その結果からのプロフィール分析である。「浄土ヶ浜エターナルグリーン」の特徴として、「静かな」「穏やかな」といった数値が高く出ていることがわかる。

また、この形容詞対を用いて因子分析を行い、因子の意味づけと、他の地域色について表にまとめた。「浄土ヶ浜エターナルグリーン」は、さわやかなといった因子得点が高く、積極的な、ダイナミックなといった活動的な因子が低いことがわかる。

アンケート結果より、もともと持っている色のイメージをより具体的に可視化することが可能となった。

▼研究の内容

以下の内容で宮古市と共に協働研究を進めた。

- 学生を対象とした地域色に対するアンケートおよび分析

6月：Webアンケート方式にて実施

回答者数127名

※アンケート調査は「■浄土ヶ浜エターナルグリーン」の他に、地域色協会が他地域と進めている地域色「■陸前高田ゆめプロッサム」「■龍泉洞ドラゴンブルー」「■久慈アンバーイエロー」「■南部紫」を比較色とした。

- 市内イベントでの聞き取りアンケート調査

7月：しおかぜフェスタにて「浄土ヶ浜エターナルグリーン」の認知度調査を実施

回答者数154名

- 企業および宮古市へのヒアリング

10月：学生参加による市内企業と市役所へ訪問し、意見交換を実施

- 学生による地域色活用方法のグループワーク

1月：地域色の活用検討

▼おわりに

本協働研究において、学生参加による地域色の意識調査および分析を行った。宮古市との協働研究の第一段階としてアンケート調査を実施することで、「浄土ヶ浜エターナルグリーン」を含めた地域色5色についてのみの調査ではあるが、それぞれ印象が大きく異なり、どのような因子が色の印象に影響を及ぼすかを数値化することができた。今後はこれらのアンケート結果を参考にしつつ、学生参加による市との連携研究を進めていきたい。

【謝辞】本研究を進めるにあたり、多大なるご協力を頂きました一般社団法人日本地域色協会代表理事竹村育貴氏、理事杉立修氏に感謝申し上げます。